

中海・央道湖・大山圏域の訪日外国人ペルソナ(案) ②妖怪・怪談 Another COOL JAPAN

プロフィール

氏名:黄 瞬悦
国籍:台湾
年齢:1985年10月生まれ(てんびん座)30歳
職業:インターネット通販会社勤務
役職:通販サイトのプログラマー
その他:日本のアニメやゲームへの関心が高い
家族構成:独身
居住地:台北市内、両親は淡水在住
休日の過ごし方:家でゲーム、チャットなど
長期休暇:日本や韓国へ買い物に行く
趣味:マンガ購入、アニメ鑑賞、ゲームなど



日本への関心

年に1・2回訪れる日本は、第2の故郷のようになってきている。秋葉原には行きつけのカフェや名物メガ盛りの店もある。アニメグッズを買うには東京が便利だが、最近はアニメの舞台やゆかりの地にも足を延ばし、東京に宿泊をしながら、鎌倉のスラムダンクの舞台や埼玉のラキスタ神社に足を延ばしてみた。次回の日本訪問の際には、新たに建設の始まったムーミン村を覗きに行こうと、最新情報やロコミサイトを調べている。

生活スタイル

- ・通勤時間は30分以内だが、フレックスタイムなうえ、週2日は在宅勤務。家で殆どの時間を過ごすことも多い。
- ・今の仕事はそこそこ安定しているが、趣味と実益を兼ねて、給与は下がっても、アニメに関する仕事があれば転職したいと考えている。
- ・サイドビジネスとして株の取り引きも行っている。
- ・家族は両親と兄がいるが、現在は別々に暮らしている。
- ・休日はアニメを観たりゲームをして過ごすことが多い。友人との対戦や海外との対戦も行っている。
- ・結婚は今すぐ考えていないが、価値観が同じ人ならばパートナーとして一緒になってもいいと考えている。
- ・好きな言葉は、「なるようになる」

情報源と接触回数

ほぼ毎日インターネットを駆使し、様々な情報収集を昼夜行っている。Google+やYouTubeでの面白い情報をチェックし、仲間とチャットやLINEで共有している。日本は時差がほとんどないので、リアルタイムでの情報収集が可能。最近は日本のアニメの復刻版が流行っていて、友人から紹介された日本のアニメを閲覧することも楽しいと感じている。

日本で実現したいこと

2次元と3次元のコラボが話題になっているので、日本各地に広がるアニメの聖地めぐりを本格的に実施したい。そのために資金集めを行いながら、東京以外の情報も随時収集を始めている。

*経験ストーリー展開案② 妖怪・怪談 Another COOL JAPAN

<メインテーマ>

日本でも珍しい妖怪・怪談のふるさとを訪ね、ゆかりの地をめぐる

<ねらい>

1. 妖怪・怪談を形にして紹介

単なるブームではなく、地域の資源として妖怪を活用し、怪談では、年々怖さを増すリアルな怪談に恐怖を感じるだけでなく、アニメ・漫画を通じた親しみやすさを押し出した展開が可能である。

2. 外国人にもわかりやすいキャラクター設定

ゲゲゲの鬼太郎の主人公鬼太郎をはじめ、目玉おやじ、ねずみ男、ねこ娘といったキャラクターを紹介し、ストーリーを知らなくても、キャラクターの動きや知っている単語を見つけ、内容が理解できる工夫を行う。

3. なんとなく怪しい雰囲気地域全体で演出

単なる妖怪や怪談ではなく、地元が自信を持っておすすめできるスポットへのアクセスや受入環境を整え、地域全体が積極的に取り組んでいる風景を表現する。

<コース設定>

ペルソナが訪れやすい設定にするために、台湾人がコース設定しやすい大阪市内(または関西空港)発着を基準にする。

また、比較的滞在時間の短いアジア向けに、大阪とセットで4・5日間のプランとする

○基本日程(3日間)

1日目 : 大阪====(高速バス)=====米子====(鬼太郎列車)====

====米子空港(記念撮影)=====境港(水木しげるロード)=====米子市内

2日目 : 米子市内====(JR)=====松江市内====(市内循環バス)====

====小泉八雲旧居=====松江城=====堀川遊覧船=====松江市内

3日目 : 松江市内==(一畑電鉄)==出雲大社==出雲市==(高速バス)==大阪

宿泊地はそれぞれのエリアで温泉にも変更可能
米子市内⇒皆生温泉・境港市内
松江市内⇒松江温泉・玉造温泉

○コース設定（案）：黄さんが訪ねる妖怪・怪談のストーリープログラム

2016年11月某日

・大阪市内⇒米子

大阪の観光案内所にひときわ異彩を放つパンフレットを見つけた黄さんは、そのタイトルに少し恐怖を覚えつつ、妖怪ウオッチのような怖くない妖怪もいるのか、ぜひ調べてみたいと思った。善は急げと、まずは中海・宍道湖・大山圏域を目指した。というよりも、何とか出発することが出来た。外国人にとって高速バス乗り場はまだ難しい。行き先と読み方がわからないので、近くにいる人に尋ねるものの、誰もわからないとのこと。日本は漢字を書く国なので、試しに筆談してみると、やっと伝わりバス乗り場にたどり着くことが出来た。米子は「MAITSY」ではなく、「YONAGO」だった。



・米子駅⇒境港市内

バスに揺られて3時間30分、妖怪で有名な境港までは、駅からJRを利用する。ゲゲゲの鬼太郎のキャラクターをデザインした鬼太郎列車が有名らしく、早速乗り込む。外観は鬼太郎のキャラクターであるねこ娘が描かれている。乗ってみると、アナウンスがねこ娘の声、わかりやすく丁寧な案内である。YouTubeアップして知人に伝えたら、あっという間にブログで紹介され拡散してしまった。次回来るときにはもっと便利になっているかもしれない。途中駅の米子空港で途中下車してみる。米子空港にも、ゲゲゲの鬼太郎を展示したスペースがあり、写真撮影にわざわざ訪れる人も多い。撮影後は再び鬼太郎列車で終点の境港を目指す。わずか30分程度ではあるが、楽しい時間を過ごすことが出来た。

列車は程なく境港駅に到着した。ガイドブックには、ゲゲゲの鬼太郎の作者である水木しげる氏にちなんだ道があり、ゲゲゲの鬼太郎のオブジェが街中のいたるところに設置されているらしい。歩いた先には水木しげる氏の世界が紹介された水木しげる記念館と妖怪神社がある。妖怪は意外と怖くないかもしれない。

◎ゲゲゲの鬼太郎ゆかりの地、境港を満喫

○米子市内～境港市内スポット

- ・鬼太郎列車（ゲゲゲの鬼太郎のキャラクターが各駅を案内）
- ・米子鬼太郎空港（空港なのにアニメキャラを展示）
- ・水木しげるロード（ゲゲゲの鬼太郎のオブジェが沿道を盛り上げる）
- ・水木しげる記念館（妖怪・怪談のふるさとのランドマーク）
- ・妖怪神社（水木しげるロード内の神社も妖怪化）

妖怪がアニメキャラとして随所に紹介されていて、まるごとゲゲゲの鬼太郎のまちになっていることに感動。友人に早くこの情報をシェアしなければならないと、ホテルに帰ってからすぐにブログ掲載に移った。近くに温泉もあると聞いたが、今日の感動をすぐに伝えたい、駅を出ると目の前にWi-Fi対応の大きなホテルを見つけたので、すぐに予約を入れた。後で聞いたら10分くらいのところに温泉があるそうで、少し残念。

<米子市内泊>

*経験ストーリー展開案② 妖怪・怪談 Another COOLJAPAN

○コース設定(案)：黄さんが訪ねる妖怪・怪談のストーリープログラム

2016年11月某日

・米子市内⇒松江市内

ホテルを出発した後、列車にて松江を目指す。米子と松江は、県は違うが実際は隣同士のため、古くから情報発信等の事業を合同で取り組んでいるそうだ。マンガ・アニメーションのアピールが上手い鳥取県のノウハウを活かし、妖怪・怪談に関する新たな作品やテーマについて提示しているようだ。台湾に帰ったら、友達に教えてあげよう。



・松江市内⇒出雲大社

昨日は境港でマンガとアニメを満喫したので、今度は松江市内で身近に感じることができる妖怪・怪談についての場所を訪れ、ガイドのYAMANEさんの説明を聞きながら街中を巡ってみる。ガイドブックに載っていない場所も多く、ガイドさんの説明を聞き逃さないように念入りに準備をして案内を待つこと数分。ガイドさんが地元言葉で案内してくれる。方言があつて少しわかり辛いですが、昨日見た妖怪よりは少し怖そうな話が続く。今日の夜は電気をつけて眠らなければならないかもしれない。

◎小泉八雲と妖怪を訪ねる ～生活に根付いた妖怪ストーリーを紐解く～

○松江市内スポット

- ・小泉八雲旧居・記念館（怪談の作者小泉八雲の元住居）
- ・松江大橋（弦助橋付近は今でもかつて犠牲となった人々の気配を感じる場所）
- ・普門院／小豆とぎ橋（小泉八雲の怪談に登場する）
- ・松江城／ぎりぎり井戸（その昔錆びた槍のささった頭がい骨が発見された）
- ・松江ゴーストツアー（小泉八雲の「怪談」を体感）

ゲゲゲの鬼太郎と違って、怪談はやっぱり少し怖い話が多く、マンガやアニメで見るよりも、自分で想像する分、怖さも膨らむ気がした。今日はなるべく賑やかなところで過ごし、電気をつけて寝ることにしようと改めて思った。温泉の雰囲気は好きだけど、大きな部屋は怖いので、今日は市内のホテルで何事もなく過ごしたい。何も出ないことを祈りつつ・・・。

<松江市内泊>

2016年11月某日

・松江市内⇒出雲大社

今日は日本の中でもとくに有名な出雲大社に行ってみる。ここも怪談マンガの舞台になっている。マンガに出てきそうな電車に乗って、出雲大社を目指す。到着後は観光案内所で情報収集した後大きな社を眺めながら、境内に進む。静かな空間に少し怪しい気配を感じる気がするが、思い込みかもしれない。荘厳な佇まいは、怪談に関係なくぜひ一度は見るべき価値のある建物だった。台湾にはない日本らしさを身体で感じる事が出来た。

○出雲市内スポット

- ・出雲大社周辺（怪談マンガの舞台）



・出雲大社⇒大阪市内

おどろおどろしい妖怪・怪談の世界を存分に感じる事が出来た。これも日本の文化として、興味ある人にはとても気になる存在なのだと思う。この後は大阪に行ってアニメグッズを物色する予定。日本は来るたびに新しい発見がある。とても不思議な国だと思う。

<スポットの解説> なぜ妖怪が境港なのか、水木しげる氏のプロフィールとともに紹介

○境港市内～松江市内

・スポット1 鬼太郎列車

境港市と米子市を結んで走るJR境線は、2000年8月に登場した「鬼太郎列車」に加え、2005年11月には「新・鬼太郎列車」、2006年2月には「ねずみ男列車」、さらには2006年7月に「ねこ娘列車」が運転されるなど、その種類も徐々に増え、現在は4タイプの列車がローテーションで運行中。愛らしい鬼太郎ファミリーのキャラクターペイントされた列車が境線の旅を楽しませてくれる。また、4種類の「鬼太郎列車」は、外装だけでなく、車内にもイラストが描かれ、子ども達を中心に人気である。

・スポット2 米子鬼太郎空港

空港のターミナルは、鬼太郎のキャラたちでいっぱい。鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男、ねこ娘などのキャラのパネルが置いてあり、オブジェもある。鬼太郎たちとお座敷に座って撮影できるスポットまでできている。もちろん、お土産屋さんにも、鬼太郎グッズが山積みになっている。

・スポット3 水木しげるロード

JR境港駅前から約800m続く水木しげるロードは「ゲゲゲの鬼太郎」などの著作で知られる水木しげる氏の創作した妖怪キャラクターや日本各地で言い伝えられている妖怪のロンズ像153体が立ち並んでいる。好きな妖怪と写真を撮るもよし、気になる妖怪に触れて効能を願うのもよし。また、同ロード沿いには、妖怪グッズやおみやげの店、妖怪神社、妖怪ポストなど、さまざまに姿を変えた妖怪アイテムが立ち並んでいる。ボランティアガイドの案内や妖怪大行進などのイベントも人気である。

・スポット4 水木しげる記念館

「ゲゲゲの鬼太郎」などの著書で知られる水木しげる氏が創作した独創的かつ多様な「作品」の世界、そして氏の哲学や精神の表れである「妖怪」の世界を迫力満点の妖怪オブジェやジオラマ、映像で紹介している。人間界の日常を忘れ、異界の姿を覗いているような感覚になれる場所である。

・スポット5 妖怪神社

妖怪ブロンズ像の故郷として、また妖怪達が住みやすい「妖怪の郷」の意を込めて創建された。ご神体は高さ約3mの黒御影石と樹齢300年の榊で構成されている。同神社建立の際に水木しげる氏が入魂した。ご神体に触ると、妖怪の持つパワーで、より精神的な安らぎと癒しを感じることができるかも。また、鳥居は一反木綿をモチーフにしている。

<スポットの解説> 妖怪は古くから外国人にも興味を持たれていたことを知ってもらう

◎小泉八雲と妖怪を訪ねる ～生活に根付いた妖怪ストーリーを紐解く～

○松江市内

・スポット1 小泉八雲旧居・記念館

1890年(明治23年)に松江にやってきて、武家の娘・小泉セツと結婚した外国人作家である小泉八雲(英語名:ラフカディオ・ハーン)が約5ヶ月間過ごしていた武家屋敷が「小泉八雲旧居」である。住んでいた当時のまま保存されているのは、現在ではここ松江の「小泉八雲旧居」しかない。また1933年には「小泉八雲記念館」が旧居隣接地に開館された。遺族から寄贈された八雲愛用の文机や椅子、直筆原稿などが展示されている。

・スポット2 松江大橋(弦助橋)

宍道湖と中海を結ぶ大橋川には、もともと「カラカラ橋」と呼ばれる竹の橋がかかっているだけだった。1608年(慶長13年)堀尾吉晴公による松江城築城のために建設された「松江大橋」は、この建設に際して人柱の伝説が残っている。川の激しい流れのため工事が難航しており、水神の怒りを鎮めるため、ある日最初に橋を渡った人を人柱にすることに決めた。そして、運悪く朝一番に橋を渡った足軽の弦助が人柱として南から3本目の橋脚の下に埋められてしまったと伝えられている。

・スポット3 普門院/小豆とぎ橋

松江藩初代藩主・堀尾吉晴が松江開府の際に開山、松平家第3代藩主・松平綱近が松江城の鬼門となる現在の場所に移転させた寺院・普門院。この寺の近くに八雲の「怪談」に登場する「小豆とぎ橋」があったと伝わる。小豆とぎ橋には、夜な夜な女の幽霊が現れ、橋の下で小豆を洗っているという言い伝えが残っている。

・スポット4 松江城

松江城を築城する際、表鬼門である本丸東側の石垣が何度も崩れ落ちたため、崩れのひどいところを徹底的に掘り返したところ、錆びた槍の刺さった頭蓋骨が出現した。城主であった堀尾吉晴が神主を招き丁寧に供養したところ、無事石垣を築くことができた。その後、掘った穴からは澄んだ水が豊富に湧き出し、「ギリギリ井戸」と呼ばれた。この「ギリギリ」とは頭のつむじを指す方言なのである。

・スポット5 松江ゴーストツアー

小泉八雲の「怪談」の世界を体感できるツアーで、月照寺、清光院、大雄寺など「怪談」に登場する場所を地元の語り部の案内のもと巡る。闇夜の中、松江の街を歩いていると見えないはずのものが現れてくるかもしれない。

<情報発信>

アニメファンが集うサイトへゲゲゲの情報を入れ込む

日本アニメの第1次ブームを振り返る世代に対して、妖怪マンガの2次と3次のコラボが可能な街の紹介を行う。YouTube 等を活用し、動きのある情報発信を続けていく